

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化やイノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実を図り、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地（知）の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、デザイン思考の素養を有した創造力のある人材の育成と、人間社会と自然環境とが共生する理想的な社会の実現に寄与することを目的として、地球システム科学科、都市・交通デザイン学科、材料デザイン工学科の3学科で構成する都市デザイン学部を開設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 部局横断型の取組による研究活動の活性化に向けた支援及び内閣府「地域における大学振興・若者雇用創出事業（計画名称：「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造計画）」に関する業務の支援に向け、学内のリサーチ・アドミニストレーター（URA）、統括コーディネーター及び産学連携コーディネーター等を一組織に所属させることで情報共有を図りやすくすることを目的として設置したURA室については、学長の下、室長を理事もしくは学長補佐が担当することにより、研究活動に関して全学横断的な支援を行うことが可能となっている。（ユニット「本学の強み・特色ある研究の推進」に関する取組）
- 自然災害の予測やリスク管理、社会基盤材料の開発、都市と交通の創造に係わる教育研究により、デザイン思考の素養を有した創造力のある人材の育成と、人間社会と自然環境とが共生する理想的な社会の実現に寄与することを目的として、平成30年4月に都市デザイン学部を新設し、入学者は149名（充足率106.4%）となっている。また、教養教育科目のうち、未来の地域リーダー育成に向けた富山の自然や文化、地域課題、地域産業について理解を深めるための地域志向科目に、富山のまちづくり、ものづくりについての理解を深める「富山の地域づくり（履修者190名）」、「富山のものづくり概論（履修者189名）」を新設している。（ユニット「教育研究組織の再編」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 事務組織における業務の簡素・合理化の推進

「業務の削減、簡素・合理化」及び働き方改革に伴う事務職員の時間外労働縮減について、双方を一体的に推進するため、事務協議会（事務局長を議長とし全部課長で構成する会議）の下、総務部長が統括し、事務組織における恒常的な業務改善を推進する体制を整備している。平成30年度は、職員個々人の業務改善に係る意識醸成を目的として、ボトムアップによる改善案の策定及び比較的容易かつ短期に実施可能な取組の優先を重点事項とし、業務改善については各部課から74件の提案があり、うち53件を実施するとともに、事務職員の時間外労働時間については14,481時間（平成28年度比▲19.8%）削減され、約3,300万円の人件費削減（平成28年度比）につながっている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ コンプライアンス推進体制整備による内部統制システム強化

平成30年度から新たに「国立大学法人富山大学内部統制規則」及び「国立大学法人富山大学内部統制委員会内規」を制定し、本学における内部統制システムの在り方・体制を明確化している。また、内部統制システムの強化のため、全学体制の整備、ウェブページの開設、研修会の開催及び手引きの見直し等、コンプライアンス推進体制の見直しを行っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 都市デザイン学部の開設

デザイン思考の素養を有した創造力のある人材の育成と、人間社会と自然環境とが共生する理想的な社会の実現に寄与することを目的として、地球システム科学科、都市・交通デザイン学科、材料デザイン工学科の3学科で構成する都市デザイン学部を開設している。都市・交通デザイン学科の必修科目「都市と交通を支える建設技術の基礎知識」では、学部教員のみならず、富山市長や国土交通省職員、富山県職員からの講演も実施したほか、受講生が7班に分かれ、橋梁見学や建設コンサルタント会社訪問などのフィールド実習を行い、実習成果を富山市の全天候型広場「グランドプラザ」で発表している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 臨床研究管理センターの体制強化

臨床研究管理センターにおいて、新たに研究実施支援・COI教育（conflict of interest：利益相反）及び臨床研究全般の総括を担当する教員を採用し、臨床研究の活性化の支援体制整備に向けた体制強化を実施している。

(診療面)

○ 包括的脳卒中センターの設置による体制整備

平成30年4月に包括的脳卒中センターを設置し、超急性期治療から回復期リハビリまでを包括的に治療できる体制とするとともに、365日24時間、脳卒中の患者を受け入れる体制を整備している。

○ 膵臓・胆道センターの設置による体制整備

平成30年9月に国内では初となる膵臓・胆道センターを設置し、消化器内科、消化器外科、放射線診断科、放射線治療科、臨床腫瘍部、病理部などの各領域における専門家が共同で、膵臓・胆道疾患の専門的診断・専門的治療に当たる体制を整備している。

(運営面)

○ 富山大学病院エクスプレスの実証運行

高岡市内と附属病院の間で運行されていた路線バスが廃止されたことを受け、高岡・射水方面（富山県の西部）からの患者やお見舞い者の交通の便を確保するため、平成30年12月から、あいの風富山鉄道小杉駅と附属病院を結ぶ路線バス「小杉駅富大病院エクスプレス」の実証運行を開始している。